

連携医院のご紹介

女性が入りやすいクリニックを目指して診療をされている、南区松原町にある「ひろしま駅前乳腺クリニック」の長野 晃子 院長にお話を伺いました。



ひろしま駅前乳腺クリニック

〒732-0822
広島市南区松原町9-1
福屋広島駅前店8F
電話/082-568-3003
院長/長野 晃子
専門/乳腺の診療・乳がん検診



〇いつ開業されましたか。

平成25年7月に当地に開業しました。最初は少人数のスタッフだけでしたが、今はたくさんのスタッフとともに、日々の診療をさせていただいています。

〇開業されてから今までのことを教えてください。

場所が広島駅前でもあり利便性が良いことと、スタッフ全員が女性ということの特徴に乳がん検診を受けやすい施設として開業しました。患者様の中には、「なんとなく痛い」「なんか気になる」といった不安があり、どこで診てもらったらいいかわからない方も来られることが多く、検診以外の保険診療にも力をいれてきました。

〇力を入れている事などを教えてください。

乳がんの早期発見と正確な診断をすることが重要です。併せて、乳がん検診の普及にも力をいれています。毎年乳がん検診を受けていただけるよう、当院で検診を受けられた方にご希望を聞き、1年後に検診のお知らせの案内を送らせていただいております。

〇毎日の診療で大切にされている事や、やりがいは？

がんやがん以外の患者様にも、納得のいく分かりやすい説明を心がけています。丁寧な説明を心がけ、検査を受けてよかったと気持ちよく帰っていただけるように、スタッフ全員で取り組んでいます。

〇県病院はどんなところで、すか。県病院に一言。

いつもお世話になっており、とても対応が早く助かっています。主に乳腺外科の先生にお世話になっているのですが、信頼できる先生方です。また臨床腫瘍科もあり、専門性の高い先生もおられるので、患者様に勧めやすくとても心強い病院です。他の診療科も受け入れてくださり、とても助かっています。



完全個室の更衣室やご家族も同席できる相談室が設置されています。



広い待合室

【取材後記】

院長先生が丁寧に取材に応じて下さり、日々の診療も丁寧に説明等されている姿が目につきました。プライバシーの配慮がしっかりされていて安心できるクリニックだと感じました。

県立広島病院からのお知らせ

5月のがんサロン

- 開催日 令和4年 5月18日(水)
- 時間 14:00~15:00
- 場所 新東棟2階 研修室 及び ZOOM参加
- テーマ がんゲノム医療と遺伝子検査
- 講師 ゲノム診療科主任部長/土井美帆子医師
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
当院での受診歴は問いません

※感染状況によりオンラインのみに変更の場合あり
※会場参加は10名(先着順)

お問合せ先 がん相談支援センター ☎082-256-3561 (定)

オンライン参加手順

- 1 専用メールアドレスに氏名、連絡番号、メールアドレスを入力し、下記へ送信します。
hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp
- 2 参加説明用紙と共に招待メールが届きます。
- 3 当日、招待メールに記載されたアドレスをクリックするとご参加いただけます。

簡単に参加できます！
参加方法については、お気軽にご連絡ください。

オンライン開催前には練習会もあります
※別途申込要

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第159号
2022.5.1
発行



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

遺伝子を調べて
診断・治療が可能！

ゲノム診療科

ゲノム診療科主任部長
(兼)臨床腫瘍科部長
土井 美帆子



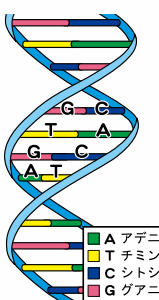
ゲノムについて

令和4年4月に、当院のゲノム診療を推進する部門としてゲノム診療科が新設されました。21世紀に入ってヒトのゲノム研究が進み、誰もが多くの遺伝子の変化(変異)を持っていることがわかってきました。これらの変異は、親から子へコピーされて受け継がれるものや、新たに子供で病気にかかわる変化が起こることもあります。また、がんのように細胞が分裂して増えていく過程で、遺伝子に異常が起きて正しいタンパク質が作られず、異常な増殖を示すこともあります。一人の人間は約37兆個の細胞から成っており、1つの細胞には約30億文字列(塩基対)のDNAからなるゲノム情報があります。

現在、多くの病気の原因究明が遺伝子レベルで進んでおり、遺伝子の変化を調べることで、診断や治療につなげることが可能となり始めています。さらに、親から子に受け継いだ変化の場合は、その体質から将来生じる可能性のある病気への対策を行い、同じ変化をもつ可能性のある血縁者の方の健康管理に役立つための重要な情報となる可能性があります。この場合の遺伝子変化は一生変わることのない究極の個人情報です。正しく知って、その人にとって最良と考えられる対処をすることが重要で、ゲノム診療科はそのための伴走者としての役割を果たします。

塩基の並びと主なゲノムDNAの塩基数

DNAは「塩基」と呼ばれる単位が繰り返し並んでできている長いテープ状の化学分子です。



◎ゲノムDNAの塩基数

種別	塩基数	遺伝子数
インフルエンザ菌	183万	1,743
大腸菌	460万	約4,400
パン酵母	1,200万	約6,500
シロイヌナズナ	1億3,000万	約26,000
イネ	3億7,000万	約32,000
ヒト	30億9,300万	約23,000

県立広島病院のゲノム診療

遺伝性疾患が疑われる方、心配な方に寄り添った遺伝カウンセリングを行い、診療科を超えた横断的な医療、世代を超えた縦断的な医療につなげることを目指しています。

当院では、着床前・出生前、新生児、小児、成人、がんといったすべての領域において、さまざまな診療科が協力し、切れ目なく質の高いゲノム診療を提供することを目指しています。また、当院では、2019年6月に保険適用となったがんの遺伝子パネル検査(一度に数百種類の遺伝子を調べ、がんの原因になっている遺伝子変化を標的とした薬剤を選択)を積極的に実施しており、当科では治療の新たな選択肢となる治験への橋渡しや、パネル検査により生殖細胞系列(生まれつき)の遺伝子変化が明らかとなった場合の遺伝カウンセリングや血縁者の方への対応を行っています。

体細胞系列のがん医療 (がんゲノム医療)

各がんのがん遺伝子パネル検査

生殖細胞系列のがんの医療

※遺伝性腫瘍
遺伝性乳癌卵巣癌症候群
リンチ症候群など

生殖細胞系列の疾患の医療(がん以外)

生殖遺伝性疾患
小児遺伝性疾患
成人遺伝性疾患 } などの遺伝学的検査

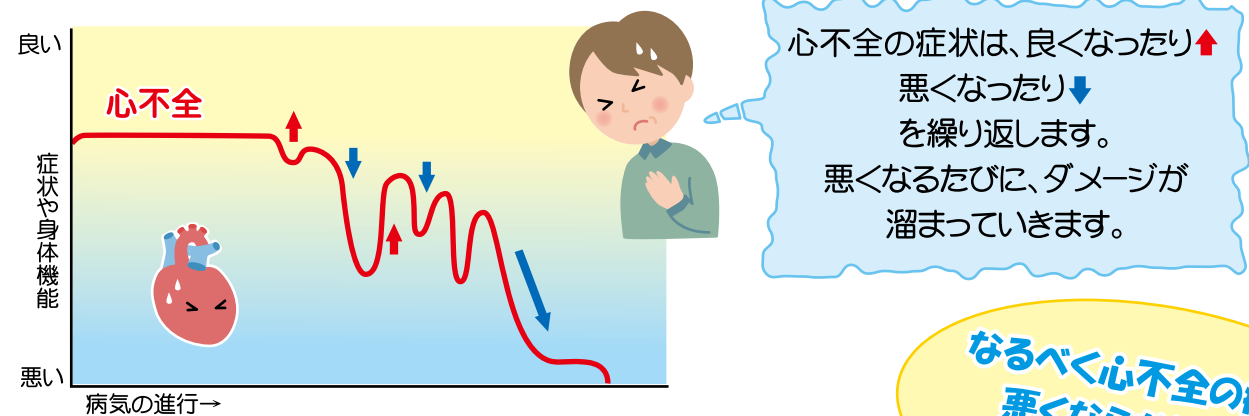
ゲノム診療科の診療の流れ

当院へ通院中の方は、主治医にご相談ください。当院へ通院中でない方は、地域連携室を通して主治医の先生からご紹介いただけます。

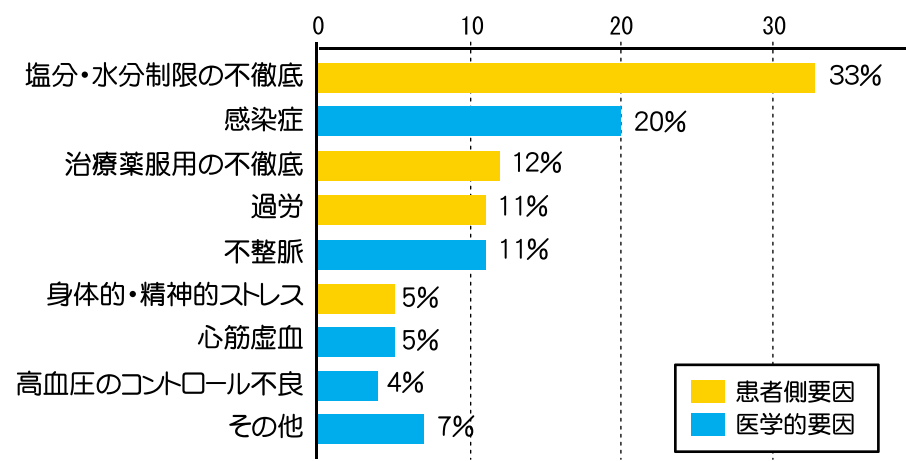


心不全は、増悪と寛解を繰り返し、徐々に身体機能が落ちていく経過をたどっていきます。入退院を繰り返しながら、生活の質も徐々に低下していくため、患者さんやご家族の負担も大きいです。一度発症した心不全が再び悪くなる原因としては、医学的な原因とは別に「塩分・水分制限の不徹底」「過労」「治療薬服用の不徹底」など、患者さん側の要因も多くを占めています。心不全治療のガイドラインでも「患者さんの自己管理能力を向上させることにより、予後は改善する」とあるように、心不全管理をしていくうえで、患者さんご自身で健康管理をしていくことはとても重要な事と言えます。このことから、この度、心不全外来を開設する運びとなり、医師と看護師による共同診療と生活指導を行います。心不全の症状が悪くなってきていないか確認を行い、自覚症状だけではなく、体重、栄養状態、運動機能、検査の結果などさまざまな視点から判断し評価をします。ご自宅で患者さん自身が健康管理を行っていただくにあたってのお悩みや心配なことについて確認し、そういった困りごとを解決できるように一緒に考えていきます。

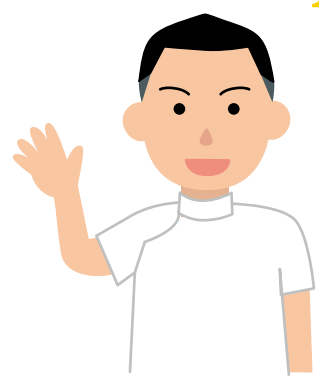
心不全の進行とリスク



心不全の憎悪・再入院の要因



なるべく心不全の症状が悪くならないようにすることが大切です!!



— ストップ・ザ・少子化 —

満開だった桜が散り、寒暖差はあるものの日中は暖かく、外出には最適な季節になりました。入学、就職など新たな人生に向けてスタートを切って将来への期待も膨らみ、本来ならウキウキ気分のはずですが、なぜか気分がどんよりと重く心が晴れないのはロシアのウクライナ侵攻と変異を繰り返すコロナのせいかもしれません。

3月にまん延防止等重点措置が全国で解除され、歓送迎会、入学シーズンを迎えて一斉に人々の動きが活発となり、コロナ新規感染者数が再び増加に転じています。さらにオミクロンの従来株(BA.1)が、感染力のさらに強い変異株(BA.2)に入れ替わっていることから、第7波への突入がささやかれています。高齢者の3回目のワクチン接種がほぼ行きわたった4月上旬現在、若者と子供に感染が広がっており、家庭内感染も問題となっています。さらに、欧州ではデルタ株とオミクロン株(BA.1)の遺伝子が交ざった「XD(デルタクロン株)」や、BA.1とBA.2の遺伝子が交ざった「XE」も見つかっており、近々日本にも上陸しそうです。

一方、映像で見る欧米諸国の日常では、マスクをしている人はほとんど見かけず、野球、サッカーのスタンドには、観客を一杯入れて3密を気にしている気配はありません。日本では観客のみならずベンチにいる選手までもがマスクを付けていますが、スタンドは一杯の観客で埋まり、3密を回避しましょうという願いがむなしく聞こえます。ある一部の国を除いて日本も含めて世界はウィズコロナに舵を切っており、近い将来方針転換が明確になりそうです。

そうは言っても、私たち医療人もウィズコロナだから罹っても良いというわけにはいきません。普段から感染リスクの高い行動を避けながら、できるだけ感染しないように心がけてはいますが、家庭内感染だけは防ぎようがありません。家の中で普段から家族全員がマスクをして生活し、

食事でも黙食、接触を避ける、なんてできるわけがありません。したがって家庭内感染を起こしたからといって責められることはありません。それはもう家族仲が良いという証拠です。むしろ濃厚接触のない家族の方が心配になります。でもそれなりの対策はあります。家庭内でのエアロゾル感染、空気感染対策として最も有効なのは換気です。これからの季節、少なくとも真夏までは、防犯上問題がなければ日中は窓を開けておきましょう。そして台所のみならずお風呂、トイレも換気扇を付けっぱなしにしておくのも家庭内感染予防に効果があると思います。1人暮らしで、直近に感染リスクの高い行動(大勢での飲食など)をとった覚えがないのに感染してしまった若者は、彼氏あるいは彼女から濃厚接触でうつったのかもしれませんが。これも仕方ありません。これを責めるというのであれば、医療人の男女交際は禁止ということになります。

コロナ感染症がインフルエンザと違うのは、無症状の感染者からうつるとのこと、死亡率、重症化率がまだ高いということです。コロナウイルスも変異するたびに死亡率は低下しており、一見ウイルスが弱毒化しているかのように思われますが、ワクチンのおかげだと思います。となると今後もワクチンは打ち続けなければならないこととなります。でも、最も問題なのは出生率がこの2年間で一層低下し、少子化がさらに加速していることです。先の見えない将来への不安から子供を産むことを躊躇、敬遠する夫婦、あるいはこのコロナ禍で出会いの機会が激減した若者、

確かにまだ結婚していない息子二人に新しい出会いがあったという話を聞きません。



院長/板本 敏行

ご意見箱

病棟においてあるチラシについて

テレビカード売り場に置いてあるチラシについて、他の病気や食生活のことなど、退院後の情報や、再発防止に関するチラシも置いてほしいです。

これからも皆様のご意見に対応していきます

限られたスペースに全ての病気に関するチラシを置くことは難しいため、最も多い疾患に関する資料を置いています。他の病気のことや、退院後の生活など気になる情報がございましたら、病棟の看護師に遠慮なく申し付けて下さい。ご要望の情報を調べてご説明させていただきます。



修道中学校・高等学校の皆様にも車椅子を磨いて頂きました!!

令和4年3月26日(土)に修道学園の中・高等部の学生さん11名と先生1名がボランティア活動のため来院してくださいました。

外来で使用している車イス20台を丁寧に清掃・メンテナンスしていただきました。おかげ様でピカピカになりました。今後も継続してボランティア活動に参加していただく予定です。これからも宜しくお願いいたします。



修道中学校・高等学校の皆様ありがとうございました!!